

第8章

環境設定



発達障害のある人の困難さは、本人の持つ特性と周囲の環境の相互作用によって起きていると考えられています。

環境を整えていく際に必要な視点について、「構造化の技法」を参考にまとめています。

バリアフリーとしての構造化①

なぜ環境調整が必要か

- 様々な環境刺激に影響を受けやすくなります。
- 周囲で起こっていることと、自分がやるべきことが理解できないことがあります。
- 対象者によっては、環境が複雑で分かりにくいことがあります。
- 様々なことを整理したり調整したりすることが困難です。

構造化された支援 ⇒ 目指すは自立

物理的構造化	⇒ 目の前の活動に集中できるように刺激を遮断する 活動の場所を明確にする
スケジュール	⇒ 日課を明確に提示する
ワークシステム	⇒ いくつかの活動を明確にする
視覚的構造化	⇒ 見える形で分かりやすく提示する
視覚的指示	⇒ 具体的に指示する
視覚的整理統合	⇒ 材料や道具等を整理統合して提示する
視覚的明瞭化	⇒ 材料や指示を明確に示す
ルーティンと柔軟性	⇒ 習慣化して教える・習慣を活用する 同時に柔軟性も教える

バリアフリーとしての構造化②

物理的構造化 ⇒ 目の前の活動に集中できるよう刺激を遮断する
活動の場所を明確にする

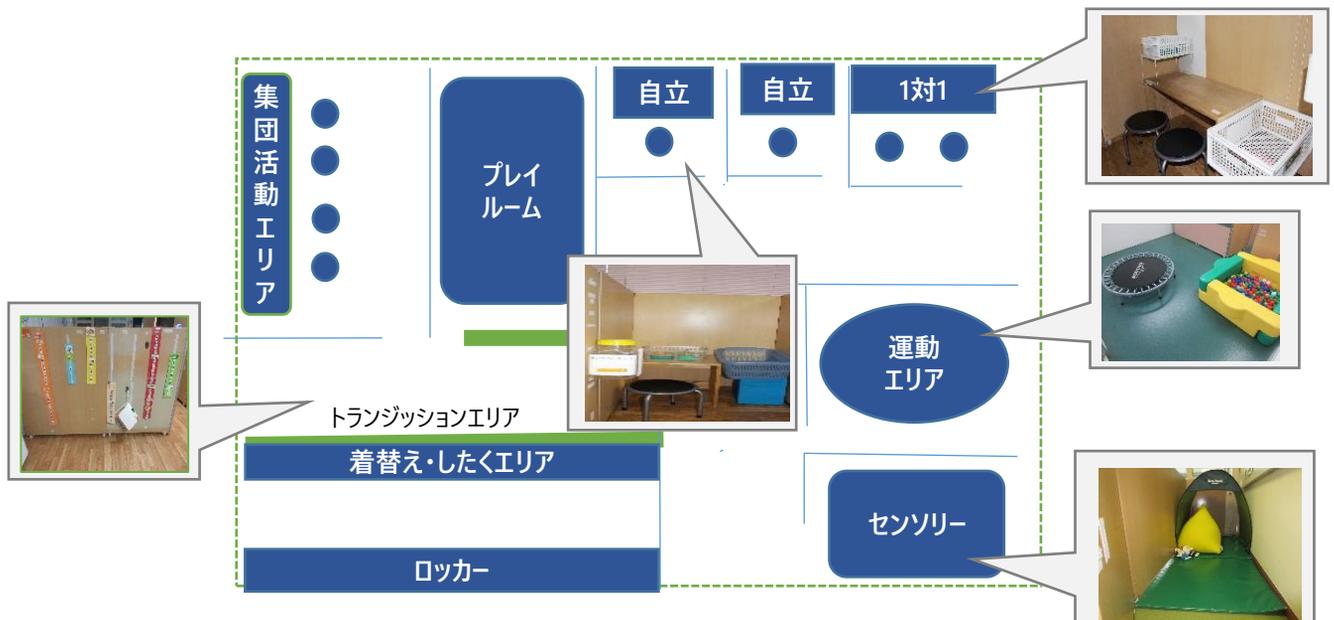
刺激を遮断して自立活動を支援する

- 発達障害のある人の中には、刺激に影響を受けやすい人がいます。
- 刺激を無視して、様々な情報の中から必要な情報に優先順位をつけて注目することが困難です。
- 刺激を何らかの方法で遮断して目の前の活動に注目させる工夫が必要です。

例) 仕切り、カーテン、間接照明、エアコン、防音、イヤーマフ、道具の配置

エリア・境界線を明確にする

- 発達障害のある人の中には、1つの場所を多目的に使うと混乱する人がいます。
- 自分がどの場所で活動するのが曖昧で、混乱する人もいます。
- 境界を明確にし、エリア（ブレイクエリア、ワークエリア、フードエリアetc）を設定します。
- 座る場所や活動する場所を明確に提示することも大切です。



バリアフリーとしての構造化③

スケジュール ⇒ 日課について明確に提示する

- ☑ 「いつ」「どこで」「何をするのか」の情報を視覚的に提示する。
- ☑ 1日の活動を提示する。

- 発達障害のある人の中には、日程を計画したり調整したりすることが困難な人がいます。
- そこで、次の活動の切り替え、見通し（予測）を持った行動、スケジュール変更の支援が必要になります。
- また、提示する情報のタイプや量等を個別化します。



ワークシステム ⇒ いくつかの活動を明確にする

- ☑ 「何を」「どれだけの量」「いつ終わるのか」「終わったら何があるのか」の4つの情報を視覚的に伝える。
- ☑ 1つの場所で、いくつかの活動を提示する。

- 発達障害のある人の中には、物事を考えるのが苦手な人がいます。
- また1つの場所でいくつかの活動を優先順位を立てて進めることが困難な人もいます。
- それを補うのがワークシステムです。
- 「何を」「どれだけの量」「いつ終わるのか」「終わったら何があるのか」の4つの情報を明確に伝えます。



バリアフリーとしての構造化④

視覚的構造化 ⇒ 見える形で分かりやすく提示する

視覚的指示 ⇒ 具体的に指示する

- 材料を見ると活動が分かる
- カットアウトジグ（はめ込みになっている）
- 絵や写真のジグ
- 絵による辞書
- 絵・文字による手順（カード、リスト）
- 完成品の提示（実物・絵・写真） 等

材料を見ると活動が分かる



材料の数の制限

材料を固定する
一体型になっている

視覚的整理統合

⇒ 材料や道具等を整理統合して提示する

- 材料を分ける
- 視覚的な境界を設ける
- 一体型になっている
- 容器の固定
- テンプレート
- B O O K、ファイル形式になっている
- チェックや答えを書く欄を設ける 等

完成品の写真



材料を固定する
一体型になっている

台紙に色を付ける
材料の数の制限



材料を固定する
一体型になっている

視覚的明瞭化 ⇒ 材料や指示を明確に示す

- 色、マーキング、ハイライトをつける
- 材料や数量の制限
- 周囲の色と色を変える
- プットイン（入れる部分を狭くする）等

イラストをあわせる

バリアフリーとしての構造化⑤

ルーティンと柔軟性 ⇒ 習慣化して教える・習慣を活用する 同時に柔軟性も教える

「『いつも同じ』は得意」「ルーティンの保持」の特性を活用して、様々な活動や進め方をいつも同じ手順で伝えます。ルーティンは、こだわりを導く可能性もあるため、柔軟性の要素を取り入れて、少しずつ変化に挑戦していくことが必要です。

例) ルーティン

スケジュールのチェックの仕方
ワークシステムのチェックの仕方
左から右、上から下の流れで伝える

スケジュールのチェックの
仕方は、上から下

例) 柔軟性

変更が見える形にする
活動や流れを変える
使う教材や指示を変える

変更を伝えるシステムはいつ
も同じ。
変更が見える形で示す。



中止・追加・変更

バリアフリーとしての構造化

- このガイドブックでも紹介している構造化というアイデアは、本人の特性に合わせて視覚的な情報を整理して伝えるものです。
- 周囲や自分の状況等、何も無い状態では理解し整理することが困難であるため、それらを補う支援になります。構造化があることで、自ら理解し自ら行動することができるようになり、自立的な活動ができます。
- 構造化は事前に様々な活動の見通しや変更を伝えることで、柔軟な理解を促すことができる支援です。反対に構造化を活用しない状況であると、自分のルールでしか動けなかったり、変更に対応できなかったりする場合があります。
- 構造化があることで自立的で質の高い生活が広がります。構造化は発達障害のある人へのバリアフリーでもあります。